

**【施策評価調査】**

施策名	1-3-1	公共交通システムの体系化と運用		76	高年齢をはじめとした交通弱者の移動ニーズに合わせて、NPO法人、ボランティア団体などの地域活動団体や民間事業者などが適切な役割を担う、地域に密着した移動サービスを整備するため、町民の意見や現状の課題を盛り込んだ計画を策定し、運用を行います。
		高根沢町地域経営計画2006 該当ページ			
担当部課	総務企画部地域安全課	担当 リーダー	危機管理 岡本英男		運用に当たっては、町内の主要施設やJR3駅、病院等の医療機関等を有機的にリンクしたものの、高齢者等の利便性がより向上するものとします。なお、策定にあたっては、現行の児童送迎バスとの併用、バス利用不便地域の対策等、町内の交通を総合的に検討します。また、運営主体・運行主体・運行形態等については広範な角度から検討し、利用者の利便性と経済性に優れた、効率的かつ効果的な運営を実現します。（「高根沢町地域経営計画2006」からの抜粋）
環境変化	特になし				

**指標**

施策の評価指標	基準値	年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度
指標：元気あつが巡回バス、福祉バス、児童送迎バスの利用者数(人)	平成16年度利用者数 37,500人	計画	37500人	37500人	37500人	39000人	41,700人
		実績	34391人	35655人	34598		
指標：		計画					
		実績					
指標：		計画					
		実績					
指標に関する特記事項							

施策に係る事業費(傘下事務事業費計)の推移	年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度
	当初	1,476,000	3,795,000	220,000		
	決算	1,102,500	3,541,568	121,000		

**事務事業事後評価 20年度の検証**

施策傘下事務事業	事業費	活動量(アウトプット)	施策への貢献度	施策達成にどう貢献しましたか？(アウトカム)			
公共交通システム整備費	当初 220,000	地域公共交通会議の設置及び開催回数	A	交通不便地域への対応や高齢者など移動手段をもたない人への対応などすべての人が安全に円滑に移動できる公共交通体系の実現のため、町公共交通計画を基礎として町地域公共交通総合連携計画を策定しました。			
	決算 121,000	2回 / 2回		今後の方向性(自己評価)	継続	今後の方向性(総合評価)	継続
	当初						
	決算	/		今後の方向性(自己評価)		今後の方向性(総合評価)	
	当初						
	決算	/		今後の方向性(自己評価)		今後の方向性(総合評価)	

**施策事後評価 20年度の検証**

自己評価	施策達成状況に関する評価		課題と今後の方向性	
	■	新たな交通システムの構築のため、高根沢町地域公共交通会議において、デマンド交通システムを活用し運行するための高根沢町地域公共交通総合連携計画の策定及び事業計画認定申請を決定しました。	高根沢町地域公共交通総合連携計画に基づき、デマンド交通システムの実証運行を平成21年10月1日から開始し、多くの住民に利用いただくため、利用増進策として地域住民への説明や理解を得るための周知活動を展開していきます。	
総合評価	<p>■ <b>総合評価</b> ■</p> <p>積極的に施策展開がされている評価する。後期計画に向け、全体像を捉えた上で、利用者の満足度を施策の評価指標を加えるなど、機能的な運行となるような施策展開を検討すること。</p>			